

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号, 法人名, 事業所名, 所在地, 自己評価作成日, 評価結果市町村受理日. Contains details for 株式会社 香島コンサルタンツ.

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kih on=true&JigyosyoCd=0170502371-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 columns: 評価機関名, 所在地, 訪問調査日. Details for 特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット.

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の中で認知症ケアの中核的相談機関となりうる様、地域との交流を積極的に行っています。コロナ禍の現在ではなかなか思うような交流が行えていませんが、感染対策はもちろんの事、外出や面会制限のなかで、利用者様の心身の衰えや症状の悪化を少しでも防げるよう毎月のレクレーションを企画実行しています。職員の利用者様を思う気持ちは他事業所に誇れるものだと思っています。施設に入居しても自宅にいた時のように暮らして頂く為に介護者目線にならないよう利用者様の希望を優先していきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、市内でも有数な大型緑地月寒公園に近く、地下鉄からも基幹国道からも徒歩圏内で、隣接してスーパーが並ぶなど、生活の利便性に富んだ住宅地に立地している。開設は平成15年で、ホーム用に新設された3階建ての建物の各階に1ユニットが入り、3ユニット27人の高齢者が生活を共にしている。母体法人は市内と近郊にグループホームや小規模多機能、保育園等を展開しており、市内の系列事業所との連携もよく、相互の協力関係も強く結ばれている。当事業所の優秀な点は、原則に沿った介護、対応を挙げたい。評価機関として外部評価時に家族アンケートを実施しているが、当事業所の回答は27件中24件で残りの3件はほぼ独居である事を考慮すると100%の回答率であり親密な関係を伺わせる。内容的にはサービスに対して「満足している」が70%「ほぼ満足している」が25%と満足指数が合計95%を超えるのは、コロナ禍での逼迫状況下での介護サービスに対して極めて高い数値だと思われる。また自由記載欄での事業所の良い点として、職員の明るさ、笑顔での対応、親切丁寧等の賛辞が20件以上寄せられ、次に連絡が迅速で適切、家族の相談に親身になってくれると続き、また文末には必ず感謝していますと綴られるなど、家族から心服の信頼を得た「グループホームコマクサの家」に今後とも期待したい。

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Contains 10 rows of evaluation items (No. 56-65) comparing staff/user satisfaction and service quality.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時理念の唱和をし、業務を行う際意識している。	事業所の玄関に運営理念と支援方針を掲示し、利用者や家族、職員と関係者に自らの考え方を示し、また毎朝の唱和で実践に活かせるよう努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	例年であれば敬老会、町内会行事の参加、中学生ボランティアの受け入れ、近隣保育園との交流等を行い地域とのつながりを大切にしているが現在は受け入れできていない。	開設から10年を経過し、地域との連携が深まっている。地域の清掃や資源回収、町内のお祭りに参加するなど地域の人々との交流に取り組んでいる。また、保育園との相互訪問や地元中学の体験学習の受け入れ等々、地域との交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議、広報誌等を通じて理解を深めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在はコロナ禍があり外部の方の参加はほとんど行えていない状況であるが、職員、本社と連携をとり広報誌を通じてご家族、包括センターへ発信している。	推進会議は2ヶ月ごとに家族や行政と包括等の委員の参加で定期開催している。内容も行事報告から事故やヒヤリハットに及んでおり、議事録は関係者から家族宅まで配布され、サービスの向上に繋げている。またその都度テーマを設け、意欲的な会議となっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政担当とは電話等で相談させていただいている。	制度の変更や内容への解釈等では、市や区の窓口へ赴いて相談し、情報交換やアドバイスを受けており、信頼性の高い関係を維持している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束にならないケアを心掛けている。身体拘束廃止委員会は全職員がなんらかの形で参加できるように配慮している。委員会での意見は全員に周知している。玄関は施錠はしているが都度外出希望者には状況を説明させていただき了解を得ている。	身体拘束廃止委員会の指針を定め、3ヶ月に一度開催し、拘束も抑制もない介護の実施について検討を深めている。議事内容については「拘束3原則」を踏まえ、現状の介護を検討しながら現場に臨んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止法の抜粋をプリントし職員休憩室等に掲示し意識できるようにしている。身体拘束廃止委員会でも虐待について勉強している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は研修に参加できないが、資料の提供をし学ぶ機会を創設している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に人間関係を築き、質問しやすい状況を作っている。説明は時間をかけ納得していたできるようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプランの説明時などに来訪して頂いた時最近の様子をケース記録をもとにお伝えし、要望を確認させて頂いている。要望は記録におとし、会議時検討している。	お便り「コマクサ通信」を発行し、またお手紙をお届けし、利用者の日常生活を伝えている。家族等の来訪時には、要望や苦情を言いやすい環境を作り、サービス向上に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議、その他の意見書を記入できる用紙を作成しており、フロアの責任者に提出リーダー会議等で検討。又直接管理者に相談できる機会を設けている。	職員会議や引継ぎ、申し送りの機会に意見や提案を受けており、また人事考課制度の活用で管理者等の個別面談も必要に応じて設定し、忌憚のない意見交換で職員の資質向上、サービスの向上に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	経験年数にかかわらず、適正にあわせ役職につけたり、キャリアパスを導入し資質向上をはかっている。自己評価の用紙を作成し自身の評価、管理者の評価とを合わせ給与水準を検討している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の希望があれば外部研修の参加や社内研修の機会を作っていたが、現在はあまり行っていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケア連絡会、管理者連絡会等を通じ情報交換を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	モニタリングなどで情報を共有、毎日の会話関わりの中から聞き取りを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを開始された翌日は当日の様子をお伝えし、安心していただく。様子をお伝えしながら疑問点はお尋ねし、要望も聞かせて頂く。入居初期はこまめに連絡を取り合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人家族の望んでいる事を聞き取り生活歴と照らし合わせ望む支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の気持ちをくみ取りながら毎日の生活の中で役割をもって生活できるよう支援している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族現在面会できずにおられる。連絡をこまめに取り、様子をお伝えしている。ご家族に電話をして頂き利用者と話す時間をとって頂いたり、手紙やホームページ、日々の様子の写真を送らせて頂いている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出ができない今、持ってこられた写真をみながらお話を頂いたり、年賀状、暑中見舞いなどのお葉書を書いて頂いている。	顔馴染みの人の訪問は、ゆっくり過ごせるよう配慮し、墓参りや初詣といった場には家族と協力しあい支援しており、昔馴染みの関係性が閉ざされない、途切れないよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロアレクや日常の仕事を一緒に行って頂きながらコミュニケーションが取れるよう仲介している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後も年賀状をださせて頂いたり、施設の行事がある時はお声掛けさせていただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人からの訴えがあった時は背景や原因を探り、解決策を話し合い支援につなげている。	日々生活を支える中から、好きな事や嫌な事を把握し、本人本位の生活が送れるように取り組んでおり、家族からの聞き取りや職歴、住んでいた地域を考慮し職員で検討しながら、介護に臨んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活環境が変わったことで困っている事や不満に思っている事はないか会話やご本人の様子をみて把握するようにしている。関係機関からも情報収集を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	どのような事に興味を示されるか、ご自身から行われる事はどのような事か意欲をくみ取り支援している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員からは気づきシートの提出をしてもらう。ご本人、ご家族、NS.主治医、それぞれの立場からみえる意見をもとに作成している。	本人、家族の意見や要望、医療面からの指導や助言、カンファレンスやモニタリングを通じて職員の意見を反映し、現状に即した介護計画を作成している。また病変が生じた際は即応し、現状に沿った介護計画になるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録を主とし他帳票類も活用し記入している。ケアを実践し気づいた事や今後考えられるリスクを話し合いモニタリングしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々で変化するニーズにあわせ安心、納得のできる対応を心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在はコロナの影響で交流の機会が減っている。今後は買い物、外食を楽しんで頂けるよう企画していく		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に条件にあったご希望の医療機関を選択していただいている。他科受診となった時でも紹介状作成など協力助言を行っている。	かかりつけ医は本人と家族の要望を優先して継続しているが、看取り介護の関係が生じた場合は、協力医の往診を利用している。往診時は、職員が立ち会って明確な情報を伝え、医療面の安全を確保している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調変化などがあった時はすぐに看護師に連絡し指示を仰いでいる。早いうちに改善できるよ連携をはかっている。看護師からの指示は看護日報に記載して皆で情報を共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には必要な情報を文書で提供し、入院中も安心できるような情報交換をしている。最近ではできないがお見舞いに行き様子確認や情報提供、MSWとも予約をとり早めに今後の方針を検討している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでい	入居時や介護計画更新時に将来の意向を伺い、ホームでの看取り対応が可能な事や主治医と話しあう機会を設けられるよう相談にのっている。	重度化した場合の介護について、本人家族の希望により、出来る範囲で寄り添う方針で、契約時に書面で説明し同意を得ている。毎年1〜2名ほど看取っており、また利用者のほとんどが当所での最後を希望している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成し職員全員が把握できるようにしている。実際にその場面に遭遇した時は再現し知識の習得に努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災避難訓練だけでなく、災害時の訓練も年1回以上行えるようにしている。地域の防災部長町内会長とも連絡をとり協力を要請している。	避難訓練は消防署の指導により年2回、近隣住民の参加も呼びかけながら実施している。同一建物の3ユニットとの合同開催で、お互いの利用者の特性も把握し、災害時の協力体制を維持している。	地震や風雪による停電の対応として、冬季の暖房の整備は不可欠であり、高齢者を預かる側としては当然の責務責任と思われるため、不意の災害に備えた暖房機材の購入を早急に実施し、安心できる体制作りを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳をもって接し、プライバシーにかかわる支援や会話は周囲に気づかれないよう配慮している。	プライバシーの保全や人格の尊重は、介護の基本を成すところであり、自己の態度や仕草、声掛けにも十分な注意を払い、利用者一人ひとりに慎重で丁寧な態度で接するよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日のコミュニケーションの中で何気なく質問したり、雑談のなかからも思いを聞き出せるようにしている。自己表現が難しい方も選択、決定できるよう聞き方に工夫を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の生活スタイル、ADL等を考慮しての支援の実施。又、その日の希望に沿って対応できるよう職員間で相談協力体制を作っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で選べない方には選べるよう声掛け行事等がある際には特にお化粧や洋服、アクセサリの選択、おしゃれの楽しみを一緒に行わせて頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立や使用する食材を相談し、決め手いただいたり、料理も作って頂いている。食事準や後片付け等も一緒に行っていたいただき食の楽しみ作りを行っている。	献立委員会が日々の献立を3ユニット共通として立てているが、利用者の好み等の嗜好に合わせてユニットごとに独自のアレンジを行っており、また後片付けなどにも参加を得て、楽しい食卓となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の食事状況を把握し、安全に栄養を補えるよう食事形態、量を考え提供している。水分は目標の水分量はあるが無理強い事なく、状況にあわせてこまめに提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご本人のタイミングに合わせて、口腔ケアにお誘いしている。必要に応じ歯科医に相談、歯科衛生士の訪問にも対応している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々のデータを取り個々のタイミングにあわせて声掛けの実施。自立されている方でも、支援を必要とされているのではないかと様子観察をおこなっている。おむつ使用者でも汚染を減らせるようトイレ誘導を行っている。	排泄はトイレで行うことを基本とし、排泄の誘導も時間と仕草やサインを読み取って行っている。食べ物や軽い運動も取り入れて、自然な排泄になるように排泄の支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく薬に頼らないよう、水分、食事、運動で排便をうながしている。		
45	17	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	眠気、体調、気分に合わせて入浴して頂けるよう声掛けしている。入浴中は唄や会話でたのしんで頂き職員も一緒に入浴させていただいた。	毎日お湯を入れて準備し、全員が週に2回以上入浴できる事を基本として、入浴支援をおこなっている。拒否者には無理強いする事なく、時間や環境、対応者等を変えながら、楽しいお風呂になるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調やリズムに合わせてお昼寝や休憩をとって頂いている。前日からの流れを把握し情報共有している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	体調の変化を報告主治医、NSIに指示を頂き服薬支援ができるようにしている。職員全員が薬情に目をとおり把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の力や個々の力を活かした家事作業や趣味の継続等を行っていただいている。忘れられている事も職員と一緒に行っていただき気分転換して楽しんでいただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	通常時は普通の会話や様子から希望を把握し、外食や買い物の機会をつくっているが現在支援できずにいる。	天候に注意し利用者の希望を優先しており、計画的な外出行事から突発的なお出かけ、買い物や外食、散歩等を精力的に行ない、またお盆の墓参りも支援し、閉じ込めない閉じこもらない介護に徹している。現在は自粛している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族とも相談し、希望される方にはお金を所持していただいている。買い物など行かれた時はご自身で支払いを行っていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	面会の機会が減っているので、ホームの電話を使用してご家族と話して頂いたり、ご家族からも電話を頂くようにしている。携帯電話お持ちの方は充電のサポートも行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室、トイレをわかりやすく表示。各月の催しは季節の飾り付けを行い、写真の掲示もおこなっている。植物の鉢を設置し水やりも行っている。共用の空間は利用者の希望で配置替えなども行っている	共用空間は、採光を採り入れ明るく、季節ごとの飾りつけや行事参加の写真の掲示などで生活感や季節感を採り入れ、居心地よく過ごせるような工夫をしている。また、利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々の希望や趣味にあわせた配置づくり。利用者が自由に動け、座れる環境を作っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を持ってきていただき使いやすいように置かせて頂いている。ADLの変化により配置替えや利用者が使いやすいよう工夫している。	居室には、家族と相談しながら使い慣れた家具や日用品が持ち込まれ、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりバーやエレベーターを誰でも使用できるようにしている。利用者が好きな時に好きなところへ行けるよう職員連携とり見守りを行っている。		